

第2回金沢大学子どものこころサミット印象記

菊 知 充

平成24年3月16～18日に開催された第2回金沢大学子どものこころサミットは、前日に三邊義雄教授からの真摯なるメッセージがNHKの全国放送で放映されたこともあり、遠方からのお客様（医療関係者や患者様のご家族）も増加し、盛況のうちに終了しました。ご尽力いただいた関係者の皆様、またご来場賜りました皆様にこころより感謝申し上げます。

このサミットの目的は、昨年同様、全国の子どものこころの発達に関わる専門家に集まっていたいただき、研究を文理の隔てなく総括し、市民の皆様とともに議論する内容でした。

第1日目は、文部科学省の里見朋香産業連携・地域支援課長に、この分野の研究の重要性と、今後の競合的研究資金の方向性についてご講演いただきました。また、2日目には、ポスター発表を含めた濃厚な学術報告がなされました。そして、小泉特任教授と、東田教授の退職祝賀会も盛大に執り行われました。3日目には金沢21世紀美術館に舞台を移し、金沢市長からもエールをいただきつつ、市民を巻き込んで、倫理的側面に重点をおいた濃厚なディスカッションがなされました。全体を通してオキシトシンの治療薬としての期待、発達障害の早期診断への期待を強く感じ、それと同時に研究者の責任を再認識させられる会にもなりました。

開催に関わった組織は、金沢大学子どものこころの発達研究センター、大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所金沢校、ほくりく健康創造クラスター／一般財団法人北陸産業活性化センター、科学技術振興機構／社会技術開発センター研究プロジェクト「自閉症にやさしい社会：共生と治療の調和の模索」、JSPS 若手研究者大航海プログラム、文部科学省 脳科学研究戦略推進プログラム、戦略的創造研究推進事業 CREST と広範囲に及びました。金沢大学十全医学会からも後援をいただきました。

各組織間に、普段から有意義な交流があるがゆえ、このような学術的行事が毎年可能になると存じております。そして、関係組織が大きくなり構造が複雑化している上に、3月という難しい時期にもかかわらず、スムーズな運営を実現するために、各組織の事務担当員が緻密な準備をしてくださいました。ここに改めて感謝申し上げます。

また本サミットに寄せて、中村信一金沢大学長から開会の挨拶を賜り、本会の目的を明瞭にお話いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

平成24年3月19日